



**1 TIKI MODERN**  
by SVEN A. KIRSTEN  
6195円

ポリネシアの神秘的なティキをテーマにした新刊本。独自の解釈から発展した世界観はアメリカン・ポップカルチャーにおいてインテリアやアートの世界にも溶け込んでいる。好きな人には堪らないティキ大全が登場。

**1** ポリネシアに伝わる偶像、サーファーの守り神、ローブローアートのモチーフとしても定番のティキが本書のテーマだ。その誕生については諸説あるようだが、そのものを大雑把に説明するならポリネシアの宗教的な彫刻である。ご存知モアイも含まれるように、その多くは岩石や木を削って彫像され、ハワイやニュージーランドなどポリネシアの国々に古くから存在する文化遺産のようなものだ。そして、第2次世界大戦などの様々な時代背景を経てアメリカに渡ったことで、このちょっとグロテスクな顔立ちの神秘的な彫刻が、ポリネシアン・カルチャーのシンボリックなキャラクターとして独特の世界観を広げていくのだ。ハワイアンファッション、レストラン、ホテルやラウンジのインテリアを始め、ティキは衣・食・住を彩り、さらには楽園や異国情緒といったエキゾチックな世界観がアートや音楽においても大いに発展する。SHAGのようなグラフィックアーティストやマーティン・デニーといったミュージシャンたちの活躍や影響力からしても、それが単なるポリネシアンという地図を意味するものではない。エキゾ、すなわち架空の楽園。ポリネシアの島々にそのイメージを重ねながらも、決して存在しない想像の世界であり楽園信仰とも言える。それは新大陸の発見から始まったフロンティア精神にも通じる、アメリカならではの信仰と偶像としてのティキ。アメリカンカルチャーが育んだ想像＝創造というクリエイティヴの原動力は、時に妄想や勘違いというタブーから産まれる副産物。タブー (TABU, TABOO)、これまたポリネシアが語源の言い得て妙なものだ。